

名古屋第一赤十字病院 外科専門研修プログラム

◆ プログラムについて

名古屋第一赤十字病院を基幹施設とし、外科の一般的診療や救急疾患のみならず、外科系サブスペシャリティーの消化器外科、心臓外科、血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科の5領域全てを含む研修が可能です。豊富で多様な症例を、多くの外科指導医・専門医の真摯な指導の下で経験できる体制が特徴です。

当院は852床の急性期地域基幹病院で、手術件数は年間2,000件以上あります。連携病院を含めるとプログラムの手術件数は3,500件を超えています。

国内の学会や研究会での若手医師の発表を積極的に推奨しており、上級医が発表および論文の指導を行います。国際学会での発表も可能です。

※プログラム内容の詳細は、当院ホームページよりご覧下さい。

◆ 専攻医の処遇

- ・身分：専攻医（常勤嘱託）
- ・給与：3年次 基本給 290,300円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）
4年次 基本給 305,800円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）
5年次 基本給 320,100円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）
- ・他施設で研修する場合の雇用条件は、それぞれの研修施設の給与、社会保障、労働条件による。退職金等は、退職時の施設基準に従う。雇用にかかわる住宅、交通などの条件は、当該研修施設の基準に従う。

◆ 研修コース

- ・現在研修中の専攻医の例（一般消化器外科）

専門研修1・2年目は基幹施設、専門研修3年目に6ヶ月間連携施設で研修予定する。

1年次	2年次	3年次	4年次以降
名古屋第一赤十字病院		連携施設	名古屋大学関連施設
外科専門研修			サブスペシャリティー領域を含む研修

◆ 外科プログラム採用実績

	平成31年度	令和元年度
消化器外科	1名	1名
心臓外科	0名	0名
呼吸器外科	2名	0名
小児外科	0名	0名
乳腺・内分泌外科	0名	1名

一般・消化器外科

一般消化器外科は愛知県西部の消化器外科を支える基幹病院の一つとして、年間約1000件の全身麻酔手術を含め、約1200件の手術を行っており、これは東海地方でも有数の手術症例数です。

質の高い先進的医療を行うことを目標に、食道、胃、大腸、肝、胆、膵までのあらゆる領域でロボット支援手術（da Vinci）、腹腔鏡手術といった低侵襲手術からな拡大手術まで積極的に行なっております。

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本大腸肛門病学会、日本肝胆膵外科学会、日本肝臓学会、日本食道学会、日本胆道学会、日本超音波医学会、日本膵臓学会の専門医修練施設、認定研修施設、指導施設であり、新専門医制度におけるサブスペシャリティとして専門医を目指すことが出来ます。研修医・専攻医は外科チームの一員として多くの手術に参加していただき、執刀医・助手として各分野の専門医・指導医に直接指導を受けることが出来ます。また、多くの症例を経験するのみにとどまらず、学会発表・論文発表を行ないさらに修練を深めていきます。

手術のみならず、補助化学療法、化学療法では化学療法科と協力し手術成績の向上につとめています。終末期の治療では緩和ケア科との密な連携を持ち、患者さんによりそう治療・ケアを実践しています。

以上のように当院は、すぐれた消化器外科医を目指す上で大変恵まれた環境にあります。

乳腺・内分泌外科

① 概略

乳腺・内分泌外科では乳癌の診断と治療および、甲状腺や副甲状腺など内分泌領域の外科治療を行っています。

乳癌は毎年症例数が増加しており、2019年の手術件数は乳癌 260 件、甲状腺 30 件でした。

② 当科の特色

日本乳癌学会認定施設であり、新専門医制度におけるサブスペシャリティとしての乳腺専門医を目指すことが可能です。

乳房再建術では形成外科と合同手術を行っています。また、定期的に化学療法内科や病理科との合同カンファレンスを行っています。

遺伝性乳癌卵巣癌（HBOC）総合診療連携施設であり、変わりつつ遺伝性乳癌治療にも力をいれています。

③ 常勤スタッフ

岩瀬拓士センター長、後藤康友部長、照屋なつき医師、片桐悠介医師、松本理佐医師の 5 名

心臓血管外科

- 年間 500 例弱の心臓、胸部大血管手術（含む胸部ステント）、弁膜症手術（含む TAVI）を行っています。
- 3D 内視鏡を用いた完全胸腔鏡下 MICS（僧帽弁、大動脈弁、他）を年間 100 例以上行っています。
- 修練医は従来 3 年目から研修を始めた場合、8 年目から 9 年目で必要な論文の執筆と手術経験を積み心臓血管外科専門医を取得しています。
- 今のところ平日 ICU 当直が duty となります。

呼吸器外科

- 豊富な手術症例数！！

2019年手術件数は肺癌 241例、転移性肺腫瘍 47例、縦隔腫瘍 17例、気胸 62例、その他 56例、計 423例であり、呼吸器外科を志す若手外科医に対し十分な質および量の研修をお約束します。

- 当科の特色

地域癌診療拠点病院として肺癌診療を中心に、外傷や気胸等の救急疾患を含め総合的かつ迅速な診療を目指しています。胸腔鏡を用いた低侵襲手術にも積極的に取り組み、患者さんに優しい医療を心がけています。また、da Vinci Xi システムを使用したロボット支援手術（2019年実績 55例）も開始し、最先端の医療も提供できる体制を整えています。

- スタッフ 常勤 5名、非常勤 1名

森 正一（部長）、福本 紘一、川角 佑太、市川 靖久、後藤まどか、内山 美佳（非常勤）

小児外科

名古屋第一赤十字病院小児外科は愛知県内でも数少ない小児外科医が常勤している施設のひとつです。単径ヘルニアや虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症など日常的によくみられる疾患を中心に年間約300件の全身麻酔手術を行っており、腹腔鏡手術などの低侵襲手術も積極的に取り入れています。また小児血液グループや新生児グループと協力し、小児腫瘍や新生児疾患の治療も行っています。

小児外科のローテートを希望する研修医は何科志望であれ歓迎します。手術や検査に積極的に参加していただき、外科の基本的な手技や小児外科疾患の対応について学んでいただきたいと思います。

お問合せ先

名古屋第一赤十字病院 教育研修管理課

TEL : 052-481-5111 E-mail : kensyu-jimukyoku@nagoya-1st.jrc.or.jp